

飛躍

森町立旭が丘中学校 第3学年
学年通信 第11号
2020年 6月22日(月)
文責 太田 雄司

熱い思いを語った“決意を語る会”

6月11日(木)に決意を語る会が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために放送での決意を語る会となりました。例年であれば、「最後の大会やコンクールの目標」「そこに向けての意気込み」をユニフォーム姿で後輩たちに伝えるのですが、磐周大会やコンクールが中止となったため、「1年生からの部活動を振り返って」「こんな状況だからこそ、残り少ない練習にどのような姿勢で取り組むか」「どんな形で部活動を引退したいか」「一緒に活動してきた後輩たちへのメッセージ」を部長たちが語りました。今回は、各部の決意の一部を紹介します。

◎今は思うように練習ができないけど、残りの部活を悔いなく行えるように、今まで同様、お互いに高め合っていきたいと思います。今はまだ記録会等があるかどうか分かりません。あったときのことを考え、信じて練習するのみだと思います。そして、最後は笑顔で部活を終えるようにしたいです。そのために、あと少ししかない練習を1回1回大切に意味のある練習にしていきたいです。3年生はもう少しで引退ですが、1・2年生はまだ先が長いです。自分がどのような選手になりたいのか?どのような姿で引退したいのかを考え、練習していきましょう。今のメンバーで活動できるのは残りわずかとなりましたが、最後まで部員全員で協力して、明るく楽しい部活にしていきたいです。(陸上競技)



◎新チームの最初は苦戦を強いられる部分がたくさんありましたが、誰かが欠けても全員がカバーして動くことができ、袋井支部2位という結果を残すことができました。全員が団結すれば、それを結果が示してくれることを改めて感じることができました。今年の野球部は、森・泉陽中との合同チームで活動をしてきました。単独チームだと、7人しかいないので試合をすることができません。そんな中、合同チームで試合・大会に出場できたことはとてもありがたいことであり、先生や父母会の皆さん、そして合同チームの仲間など、たくさんの方々への感謝をしなければなりません。一人一人が悔いの残らぬよう、そして今まで支えてきてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに全力でプレーしていきます。(野球)



◎3年生になり引退に向かう中、練習時間が残りわずかとなってしまいました。とても残念ですが、これから僕たちにできることをやり遂げたいと思います。後輩に残せるものを全部残したいと思います。また練習に限らず、日常生活でも手本となれる行動を心掛けていきたいです。練習では、最後まで最大限の力を発揮できるように頑張ります。最後まで全力で取り組み、悔いのない引退を迎えたいです。部員全員が「この部活に入ってよかった」「磐周一応援されるチームになれた」と言えるよう、残り少ない時間を大切に、最高の形で引退できるように頑張ります。(男子ソフトテニス)



◎私たちは人数が多い分、よい面も上手くない面もありましたが、日頃の生活も含め、当たり前のことを当たり前に行うことで少しずつ部の雰囲気も変わり、結果を残すことができるようになってきました。磐周大会がなくなり、目標を見失いそうになったこともありますが、3年生全員で思いを語り合い、改めて残りの日々の活動に対しての目標を確認することができました。3か月間部活動ができなかったことは非常に残念ですが、ようやく活動ができるようになった喜びをかみしめ、練習試合に送迎してくれた家族や真っ黒になりながら活動を見守ってくれた先生・ボール出しや準備を率先して行ってくれた後輩への感謝の気持ちを忘れずに23人全員で練習に力を注ぎたいと思います。(女子ソフトテニス)

◎僕たちの学年は人数が多く、周りに流されやすいため、先生方に指導される場面も多く、なかなか自覚がもてない時期がありました。学校のルールが守れなかったり、違反をしたりして活動ができないこともありました。そういった経験から僕たちは変わり、部活に対して、バスケットボールに対して積極的に取り組むようになりました。そのような中で休校が続き、部活動ができない期間に一人一人が自主練習を頑張っていると聞きました。みんなとバスケットボールをすることがどれだけ恵まれていて、楽しい時間だったのかを改めて感じました。このメンバーでバスケットができることを楽しみながら、試合ができるチャンスがあると信じ、今できる最高のプレーができるように頑張りたいと思います。残り少ないですが、全員で協力し、全員でよい最後を迎えたいと思います。（男子バスケットボール）



◎私たちは部員が少なく、試合形式の練習ができないため普段から基礎を徹底してやってきました。基礎練習ばかりで大変だったけど、その分基礎が大事だということを知ることができました。このような状況になり今は思うように練習ができません。だからこそ、短い時間でしっかり集中して取り組み、各自で自主練習を行うなど、工夫して残り少ない練習を全力で頑張っていきたいです。いつ終わってしまうか分からない状況の中で、今までと変わらず一生懸命部活動に取り組むことが何よりも大切だと思います。そして、きちんとした姿を1・2年生に見せて終わります。（女子バスケットボール）

◎今までの活動を振り返ってみると、分からないから・できないから・楽譜が読めないからと練習を諦め、甘い気持ちでコンクールに出場してしまったことがありました。上級生になっても先生に頼りっきりで、自分たちが後輩を引っ張っていかなくてはならないという自覚がなかなかもてず、1年生の頃からの悪い癖で、練習をおろそかにしてしまい何度も失敗した日がありました。吹奏楽部は他の部活動と違い、全員がレギュラーであり、全員が違うパートを受け持ち、全員が同時に演奏するため、誰か一人でも欠くことができません。同時に誰かができませんでしたでは、合奏が成り立ちません。そのため全員でフォローし合うことの大切さや全員で同じ目標に向けて練習することの大変さを学ぶことができました。コンクールは中止となってしまいましたが、飛躍祭で演奏する最高のチャンスをいただきました。チャンスを台無しにすることのないよう、そして、全校のみんなに楽しんで聴いてもらえるよう、全力で練習に励みたいと思います。（吹奏楽）



◎総合文化部は、切り絵・イラスト・コンテストの作品作りなど、個人作業が主な活動内容です。上手に作れたときの達成感や自分を表現することの楽しさを味わうことができました。このような状況になってしまった今、部活動の時間が減ってしまったのは残念ですが、総合文化部は家でも製作を行うことができます。家での時間を大切にしていよいよ作品を作りたいです。もうあまり部活動の時間がありません。だから悔いの残らないように自分の製作に集中して行いたいです。（総合文化）



集大成となる場を失ってしまった状況で、決意を語ることは簡単なことではなかったはずですが、どの部長の言葉にも部活動への熱い思いが込められており、感動あふれる時間となりました。部長の言葉を聞いて、この子たちなら、今できる最高の形で部活動を終えられる。後輩たちに素晴らしい財産を残してくれる。と確信しました。最後まで部活動に意欲的に取り組む生徒たちを全力でサポートしていきたいです。

高校野球では夏の甲子園が中止となりましたが、それに代わる独自の静岡県大会の開催が決定されました。それを受けて甲子園出場42回を誇る静岡高校野球部の監督が部員たちに伝えた言葉を紹介します。「甲子園という目標がなくなっても、お前たちの成長は消えるものではない。お前たちの中に宿っているものだ。それを忘れてはいけない。高3の夏の甲子園がなくなったという過去はどう言おうが変わらない。けれど過去の持つ意味はお前ら次第で変わる。目標がまだ決まらなくても、気持ちが晴れなくても、切り替えられなくても、抱えたまま一歩踏み出す。歩き続ける。そうすると目の前の道が開けてくる。苦しくても、抱えながら歩き続ければヒントに出会える。次はこれがやるべきことだって。頑張るぞ。」

また静岡高校野球部の主将は本校の卒業生である相羽寛太選手です。相羽選手は1年生からショートのレギュラーで、甲子園の出場経験もあります。次なる夢は“プロで甲子園”です。それだけに、高校最後の晴れ舞台へ意気込んでいるようです。次の言葉は大会に向けての相羽選手の決意です。「今年の高校野球で甲子園は出られないけれど、プロになって甲子園でプレーできるように頑張りたい。県内で負けて終われないと思うので、最後の最後、優勝して終わりたい。」